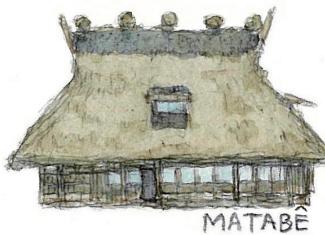


あいちの  
たてもの  
すまい編

AITI NO TATEMONO SUMAI HEN



AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS,  
GOVERNMENT OF JAPAN



KAKEIKE



TOMITAKE



KAWATAKE



TAMESABURÔ KINENKAN

REGISTERED  
TANGIBLE  
CULTURAL  
PROPERTY

愛知登文会



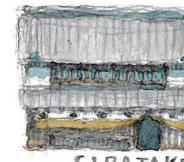
KYÛ HONDATEI



KAWARADAKE



OGURIKE



SIBATAKE



SIRAIKE



OZEKIKE



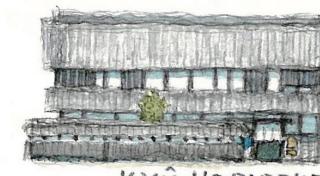
NAKAHAMAKE



KYÛ MINATOYA



KYÛ ISIHARAKE



KYÛ HORIBEKE

愛知県  
国登録有形文化財  
建造物所有者の会

あいちの  
たてもの  
すまい編

あいちのたてもの  
"すまい編" MAP



- |                |                              |
|----------------|------------------------------|
| ① 小栗家住宅 » p.12 | ⑩ 旧石原家住宅(石原邸) » p.38         |
| ② 柴田家住宅 » p.14 | ⑪ 川原田家住宅 » p.40              |
| ③ 白井家住宅 » p.20 | ⑫ 又兵衛 » p.44                 |
| ④ 中濱家住宅 » p.22 | ⑬ 旧堀部家住宅(木之下城伝承館 堀部邸) » p.48 |
| ⑤ 尾関家住宅 » p.24 | ⑭ 爲三郎記念館 » p.50              |
| ⑥ 篠家住宅 » p.26  | ⑮ 旧本多忠次邸 » p.56              |
| ⑦ 旧湊屋 » p.30   | ⑯ 有楽苑 如庵 » p.16              |
| ⑧ 富田家住宅 » p.32 | ⑰ 三井家住宅 » p.42               |
| ⑨ 川田家住宅 » p.36 | ⑱ 博物館明治村 » p.52              |

の  
ち  
の  
も  
の  
あ  
た  
す  
ま  
い  
編

絵と文 村瀬 良太

◆ 活かす	【登録文化財で屋食を】	34
旧湊屋	富田家住宅	32
【コラム】建築家の自邸	30	
◆ 住む	【特集1】素人でも楽しめる! 茶室の見かた	29
小栗家住宅	柴田家住宅	28
白井家住宅	『特集1』素人でも楽しめる! 茶室の見かた	26
中濱家住宅	白井家住宅	24
尾関家住宅	中濱家住宅	22
覓家住宅	尾関家住宅	20
【コラム】建築家の自邸	覓家住宅	16
◆ 開く	【コラム】建物を楽しむために	14
飯田喜四郎先生特別インタビュー「住宅を文化財として残すこと」	【特集2】三井家住宅	12
あいたて博とonlineあいたて博について	又兵衛	11
愛知県国登録有形文化財とは	川原田家住宅	10
国登録有形文化財建造物所有者の会とは	川田家住宅	4
【コラム】重要文化財望月家住宅	旧石原家住宅(石原邸)	2
飯田喜四郎先生特別インタビュー「住宅を文化財として残すこと」	『特集3』博物館明治村の住まい	
あいたて博とonlineあいたて博について	旧堀部家住宅(木之下城伝承館堀部邸)	
愛知県国登録有形文化財とは	爲三郎記念館	
国登録有形文化財建造物所有者の会とは	日本多忠次邸	
【コラム】三州足助屋敷	飯田喜四郎先生特別インタビュー「住宅を文化財として残すこと」	
飯田喜四郎先生特別インタビュー「住宅を文化財として残すこと」	あいたて博とonlineあいたて博について	
あいたて博とonlineあいたて博について	愛知県国登録有形文化財とは	

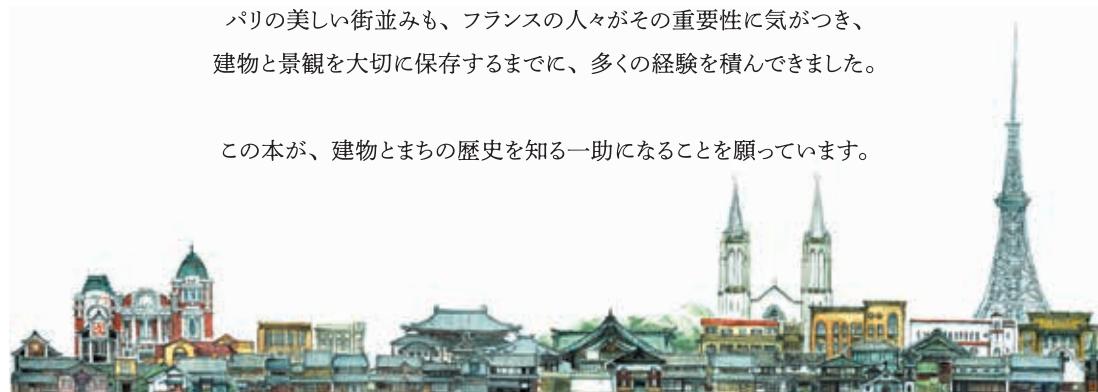
## もくじ

# はじめに

私たちのまわりには、古めかしい洋館や、立派なお屋敷、歴史のある校舎に、清楚な神社、荘厳な寺院や、可愛らしい教会、そして大きなレンガの工場に、役割を終えた電波塔など、年月を重ねた建物がごく自然にまちにとけ込んでいます。そういった文化財として貴重な建物を、国登録有形文化財といいます。日本には他にも、重要文化財や国宝などに指定された建物があり、現在その総数は、1万6000件ちかくに上ります。市指定・県指定のものを含めると、さらにその数は増えますが、一方で、フランスの規定する歴史的記念物の4万6000件には遠くおよびません。日本は文化的には、まだ発展途上なのです。

本書は、愛知県にある国登録有形文化財の魅力を紹介する本です。今回は「すまい編」として、江戸時代から昭和にかけて建てられた農家や町家、武家屋敷や洋館などの住宅を取り上げています。それらはすべて、あたりまえに残ってきたわけではありません。多くの人々の努力で残してきたものも少なくないのです。そういった意味では、残された建物はすべて価値のある良い建築といえます。そんな身近にある良い建築を知ることで、私たちのまちとその風景を大切に思う気持ちにつながってほしいと思います。パリの美しい街並みも、フランスの人々がその重要性に気がつき、建物と景観を大切に保存するまでに、多くの経験を積んできました。

この本が、建物とまちの歴史を知る一助になることを願っています。



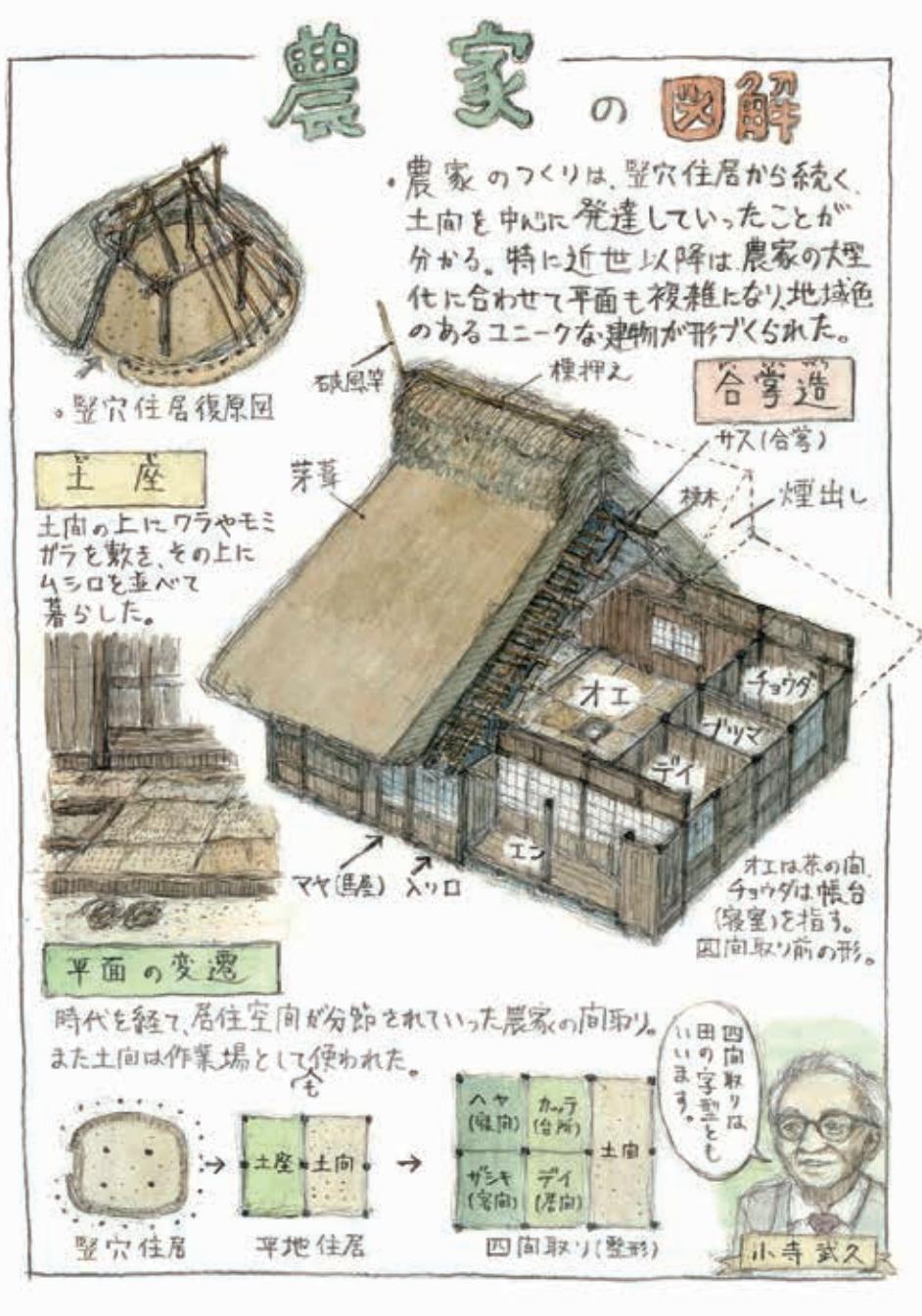
# 愛知の建物、住まい編

## はじめに

まるで地面から生えてきたかのよう  
な茅葺屋根の農家や、街道に沿って町家  
が軒を連ねる姿は、日本の美しい原風  
景です。

意外に思われるかもしれません、この  
ような住まいの調査や研究が本格的に  
始まったのは戦後になってからで、比較  
的新しいジャンルになります。

この本で紹介する建物は、江戸時代か  
ら戦前まで建てられた登録文化財の  
住宅たちです。そこには、長い歴史の中で  
変遷を遂げてきた日本人の暮らしのか  
たちが色濃く残されています。



## 豊穴住居と高床住居

農家や町家でもとも古いかたちを残  
しているのが土間です。その歴史は縄文  
時代の豊穴住居まで遡ることができます。

豊穴住居は、5～10mくらいの円や隅  
の丸い四角い平面を50cmほど掘り下げ、そ  
の中に4本の柱を立てて木で繋ぎ、そ

こに細い木を斜めに立て掛けた草や木で  
屋根を覆つて作ったと推測されています。

また、中央には炉があり、屋根には煙抜  
けの窓があって、入母屋造に近い形をし  
ていたと考えられています。

このような土に接した暮らしは平地  
に移行した後も残り、寒冷地の農家では  
戦後になつても土の上に藁を敷いた土座  
での住まいが確認されています。熱田神  
宮にある又兵衛では、そんな原始の暮らし  
の雰囲気を感じることができます。

一方で、床も古くから日本人の住まい  
の中ありました。その起源は、弥生時  
代に稻作とともに渡ってきた米を保存す  
る高床の倉に遡ります。農耕に使用され  
た鉄器は木を製材する道具にも用いら  
れ、加工された木材同士を組み上げるこ  
とで頑丈な倉が作られました。

その後、高床の倉は豪族の家や神の住  
まいへ転用されたと考えられ、伊勢神宮  
などの古い歴史を持つ社殿にその姿が伝  
えられています。

## 寺院の講堂と寝殿造

6世紀ごろに伝来した仏教は、日本の  
建築にとって大きな画期となりました。  
寺院建設では礎石に柱を立て、長押など  
の横材で固定し、梁や桁で軸組みを作つ  
て小屋を架け、軒先を組物で支えて、垂  
木の上に土を敷き、瓦を載せました。こ  
れは、後に続く木造建築の根幹となり、ほ  
ぼこの段階でそれが出来上がったことを  
示しています。

また、寺院の講堂の形式は、平城京や  
平安京の役所をはじめ貴族の住まいにも  
用いられました。法隆寺東院の伝法堂は、  
平城京にあった聖武天皇の橘夫人の住宅  
を移築したもので、講堂と同じつくりの  
建物ですが、寺院と違つて床が張られて

いるのも特徴です。

平安時代になると、それら貴族の住まいが発展して、寝殿造と呼ばれる形式が出来上りました。寝殿(主屋)と対屋を廊下で繋ぎ、寝殿の前には白砂の庭と池が築かれました。  
また屋内は御簾や几帳、障子、屏風、御帳台、置き畳などで飾り、これを室礼といいました。「源氏物語絵巻」などの絵図には室礼による艶やかな暮らし方が描かれています。

ところで、「年中行事絵巻」などには平安京の市井の暮らし方が描かれ、板葺の町家が軒を連ねていて、その姿も確認できます。町家はみちに面してミセを開き、細長い屋内には土間が奥まで通っていたことが描かれています。

### 書院造と数寄屋造

400年近く続いた平安時代が終わると、武家が権力を握る社会に移行しました。上級武士の住まいは当初、寝殿造を受け継いだものでしたが、後に中国の禅

宗文化の影響を受けて変容し、書院造という形式をつくり上げました。

書院造の特徴は、床の間や違棚、付書院などの座敷飾りを部屋に作り付けたことにあります。それらは元は仏画の前に置かれたテーブルや、中国の茶器や本を飾る棚、そして書き物をする出机だったものです。また寝殿造では座る場所に置かれた畳が、床全面に敷き詰められたのも大きな発展でした。

そんな高度な造作が可能になったのは、中世を通じて建設技術が飛躍的に発達したことがあげられます。大鋸や台鉋の登場が角材や板材の製造を容易にし、角柱と障子などの引き違い建具を用いて部屋を分け、天井の張られた室内空間をつくり出しました。

書院造は対面と接客を重んじた武家文化として定着し、15世紀末に造営された慈照寺(銀閣寺)の東求堂の時点では、私たちが知る和室の姿がほぼ完成されていました。富田家住宅や旧堀部家住宅には、そんな武家の住まいの

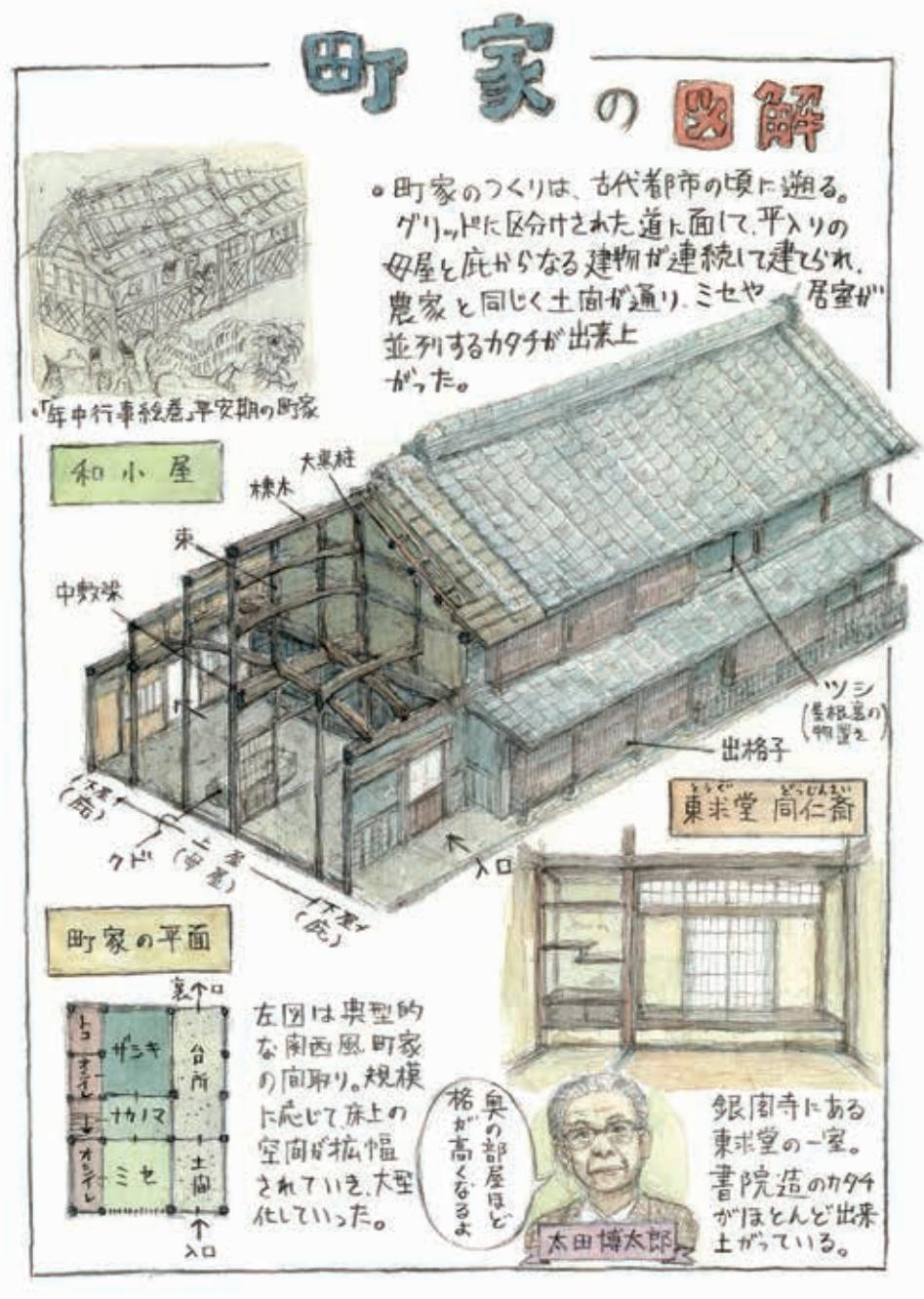
趣が残されています。

一方で、禅宗と共に伝えられた喫茶文化が発展して茶の湯を生み、侘び寂びに求めた独特の世界は、安土桃山時代に千利休によって大成されました。また、茶事を営むために考案された茶室の意匠が数寄屋造へと受け継がれて、書院造とは趣の異なる座敷飾りを生み出しました。爲三郎記念館の座敷飾りはこの流れを汲んでいます。

### 江戸時代の民家

江戸時代になると、武家の文化は町家や農家にも浸透していました。ただ格式を重んじる武家社会では厳しい身分制度が敷かれ、書院造は武家以外には禁じられ、贅沢な座敷飾りや立派な門、玄関を設けることも制限されました。

一方、江戸や京都などの都市と、それらを繋ぐ東海道や中山道などの街道沿いには町家が軒を連ね、土間にミセ、ナカノマ、ザシキが並列する間取りが普及しました。また防火対策として塗屋



造や瓦葺屋根も普及し、近世の町並みが形成されました。柴田家住宅や白井家住宅、中濱家住宅などの町家は、その名残をとどめています。

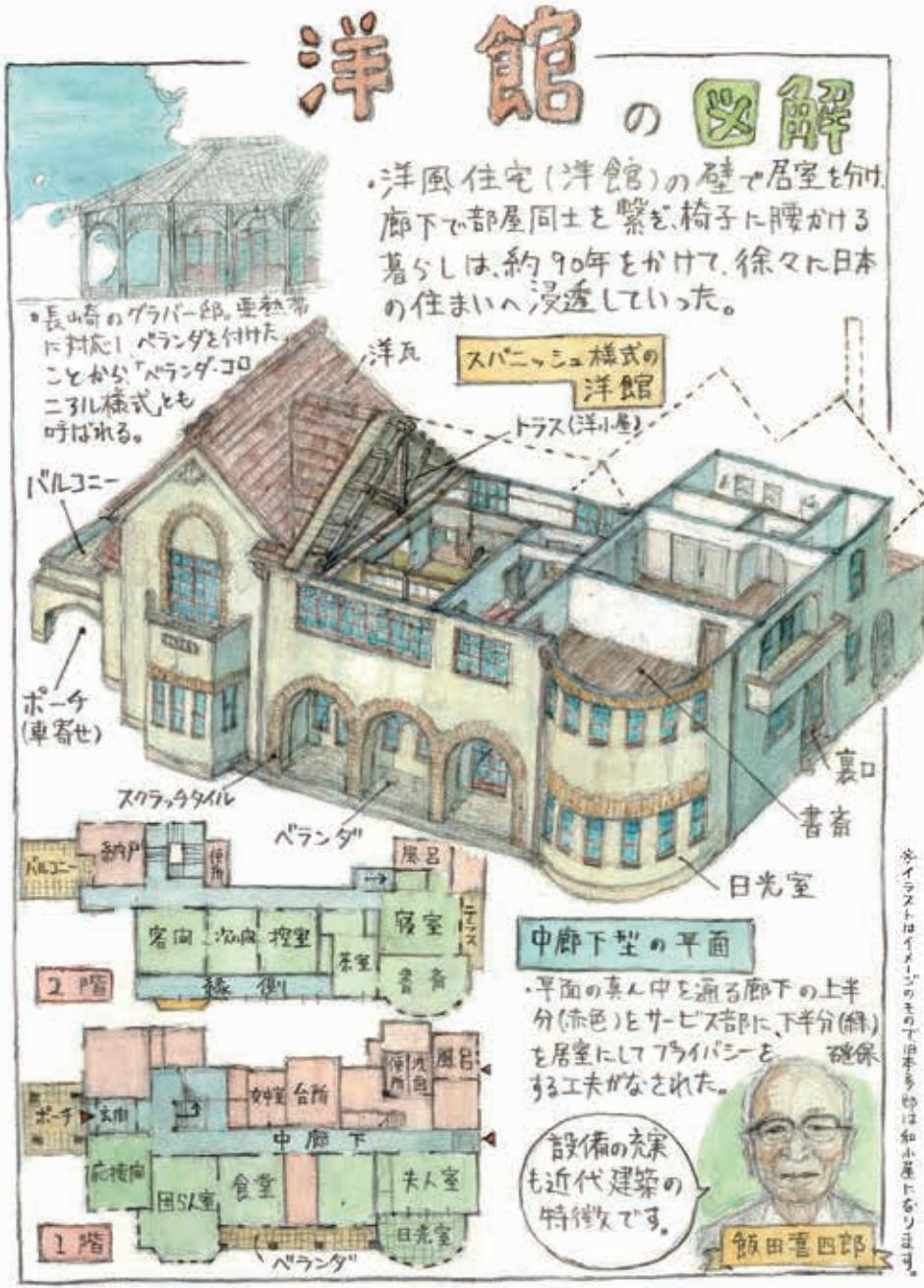
また、各地方で特色のある大型の農家が建てられたのも江戸時代になつてからです。居室は、土間と“デイ、カッテ、ザシキ”、ヘヤで構成される四間取りのような各部屋に分けられ、地域によってはさらに多様な変化を遂げました。それら平面に対応して屋根も複雑になり、特徴的な農家の姿がかたちづくられました。窓家住宅や川田家住宅も、そんな農家の建物です。

### 洋館と中廊下型住宅

江戸時代が終わり、明治の世が始まるとき、日本の社会は劇的な変化を遂げます。長崎や横浜、神戸などの港町には外国人の住まいとなる居留地が開かれ、そこではベランダ付きの洋風住宅が建てられました。また都心でも、政府の要人や華

族、商人たちが洋風の住まいを求めて、西洋スタイルの生活を取り入れられました。一方で市井の人々の住まいは、依然として江戸時代の頃のままでした。ただ、かつては許されなかつた豪華なつくりの住宅が各地に建てられ、また洋風建築の影響で背の高い2階建ての町家や農家も普及しました。小栗家住宅はそのような豪商の豊かな暮らしを伝える代表的な住宅です。

ところで洋風住宅は、それまで日本の住まいで顧みられなかつた個人のプライバシーや、不衛生な台所など設備環境の問題点について意識の変革を促し、大正時代に興つた住宅改良運動へと繋がっていきます。中廊下型住宅は、そんな問題意識を受けて登場した住まいで、中流階級の人々に広く受け入れられました。基本構成は、廊下を中心北に台所や女中部屋、風呂、便所といったサービス部を置き、南に客間や居間を配置することで、各部屋のプライバシーを保つことが考えられました。



古くから続く日本人の住まいを劇的に変えたのは、太平洋戦争だったと言われています。全国で260万戸を超す住まいが失われ、戦後復興期の乏しい資材で建てられた住宅からは、長く暮らしの中にあつた客間も姿を消しました。現在の私たちは、電化製品や空調設備が発達し、快適な住まいで暮らしをつなりました。その一方で、寒くて手間のかかる住まいでの暮らしに、強く憧れる瞬間があります。ひょっとしたらそれは、便利さの中で忘れてきた大切な何かがそこに残されていることを感じているかもしれません。

### おわりに

一方で、客間と居間は襖を開けるとひとつなぎの部屋となり、接客空間が未だに暮らしの中心にあつたことも窺わせます。川原田家住宅や旧本多忠次邸からは、そんな中廊下型住宅の暮らしを感じることができます。